

研修報告書 No.24

研修先： 渭南病院

今回、私は高知県の西部に位置する渭南病院で地域医療研修を行いました。四国の最南端である足摺岬が近くにあり、人生で一度は行ってみたいと思ったため、この機会に選択しました。来た初日に足摺岬を訪れてみました。断崖絶壁に立ち荒々しい波の様子や穏やかな水平線を眺めることができ、貴重な経験ができました。また、地元で有名な清水さばのお刺身を食べてあまりのぷりぷり食感に衝撃を受けた記憶があります。来た初日から土佐清水のことが大好きになり、土佐清水の医療についてより一層学びたいと意気込むことができました。

翌日から早速外来と救急車の初期対応を任せてもらえました。実際に患者さんを診察し、自分でアセスメントとプランを考え、上級医に報告し、良ければプランを実行するという流れでした。1ヶ月研修をしている間に幅広い疾患を対応することができました。例えば基本的な感染症から外傷、骨折、魚骨誤飲、脾損傷、脳出血、肩関節脱臼、関節水腫、皮膚軟部組織感染、顎下腺膿瘍、尿閉など数えきれないほどの疾患の対応をしました。胸腔穿刺やcvカテーテル挿入、胃瘻交換、切開排膿、褥瘡、創部縫合などの処置に関しても指導医の監督のもとで数多くさせていただきました。魚骨の患者さんを対応した時に感じたことは、専門分野以外の知識や手技も求められることです。自施設の場合は消化器内科に紹介し、内視鏡を依頼するのが普通でしたが、研修病院は普段から全ての診療科があるわけではなく、限られた資源の中で患者さんに治療をしなければなりません。対応できない場合は1時間かけて転院しなければなりません。指導医は外科の専門でしたが、内視鏡にも精通していたため、早期対応ができました。このように広い範囲で対応できる能力が地域では必要なのだと感じ、自分もそうなりたいと強く思いました。先生方の熱心な指導により、新たな知識を習得できたとともに、数多くの経験をすることで自身の臨床能力に自信を持つことができました。

自身が入院に関わった患者さんの入院担当にも携わりました。自分で入院計画を考え、患者さんの状態を毎日観察し、適宜検査を施行したりと、指導医の許可のもとで自由にすることができました。そうすることで治療法は正しかったのか、検査をするタイミングは適切だったのか、診断は間違いなかったのか、患者さんの思いをしっかりと聞き入れているのかどうかなど自分で考える力が身につき、今後の診療に役に立ったと感じました。

外来や入院以外にも在宅医療や特別養護老人ホームでの診療にも携わることができ、高知県の地域医療の状況を目の当たりにしました。特に多いと感じたことは老老介護でした。普段病院で働いていて病院の外の状況を実際に見ることはありませんでしたが、老老介護を実際に見て本当に解決すべき問題であるなど心から思いました。在宅医療で感じたこ

とはご家族のサポートが何よりも大切であるということでした。また、レスパイトケアのために、ショートステイを利用したりなど、地域全体の協力があるのだなと改めて感じました。

今回1ヶ月という短い間でしたが、地域医療とはどのようなものなのか、どのような課題があり、対策をしていくのかということについて考える機会を得ることができました。疾患に対する治療だけではなく、患者さん本人への包括的な医療の提供をするためには、他職種の方々とのコミュニケーション、連携が重要であると改めて感じました。今後、医師として働く時はこのようなことも意識して診療に励みたいです。

今回受け入れて下さった渭南病院の先生方、スタッフの方々のおかげで大変実りのある研修を行うことができました。また、この機会に土佐清水市のことが大変好きになり、また訪れたいと思いました。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。